

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	凝集体生命圏：海洋炭素循環の未知制御機構の解明
研究代表者	永田 俊 (東京大学・大気海洋研究所・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>気候変動およびそれに関わる海洋の炭素循環において、凝集体の海底方向への鉛直輸送は極めて重要である。本研究は、凝集体とそこに生息する微生物群集を「凝集体生命圏」として捉え、凝集体動態の1)構成種把握、2)制御機構解明、3)炭素鉛直輸送との関連性解明という3つのサブテーマで構成されており、これらのサブテーマごとの研究を総括し、生物炭素ポンプと生物活動との動的関連性の解明を目指すものである。</p> <p>本研究は、学術的に見て挑戦的なテーマであり、炭素循環の重要なピースを見いだすことが期待できる。また、海洋のCO₂吸収源の考え方を明確にできる方法の一つになる可能性がある。</p>